

事務事業評価表 平成23年度

政策 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実
 施策 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造
 基本事業 自主的市民文化 芸術活動の育成・支援

事業名 セラミックアートセンター企画展開催事業

[0477]

部名	教育部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	郷土資料館	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>市民</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>多くの市民(来館者)に利用してもらうことで、よりねんがとやきもののまち「江別」のイメージを広く共有し、市民の文化意識の高揚を図る。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やきもののまち江別」を市民間に共有のイメージとして意識してもらうこと、また芸術文化に触れて市民生活を豊かにしていくために、地元江別をはじめ国、道内外の優れた陶芸作品や芸術作品等の文化アートの鑑賞の場として企画展を開催する。 ・市内関係機関や道内外の美術館・博物館などにポスターやチラシ等を掲示する。

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度当初
対象指標1	市民	人	123,054	122,568	122,138	122,138
対象指標2						
活動指標1	企画展開催数	回	1	1	3	2
活動指標2						
成果指標1	企画展入場者数	人	1,591	2,070	4,309	3,000
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計(A)		千円	3,270	8,759	3,709	4,349
正職員人件費(B)		千円	4,179	5,394	4,030	4,888
総事業費(A) + (B)		千円	7,449	14,153	7,739	9,237

費用内訳	
22年度	報償費 132千円、旅費 214千円、需用費 248千円、委託料 3,115千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	やきもの文化振興策の基軸	事業を取り巻く環境変化	
--------	--------------	-------------	--

22年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・
根拠は？

市民への陶芸文化の啓蒙・普及を目指し、よりよい鑑賞の機会の充実を図るために公共的機関がおこなうことが望ましい。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・
根拠は？

陶芸文化を中心に広く本市における芸術文化振興の基軸となる。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・
根拠は？

やきものまちなまち江別のイメージを市内外に浸透させる効果を図るため、前年度は1回のみで開催だった企画展を、3回の実施に変更したことで年間の入場者数を増やすことができた。ただし、1回あたりの入場者数が思うように伸びていないという一面もあり、その理由としては広報の不足等が考えられる。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

企画や運営のあり方を工夫することで可能。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・
根拠は？

単費開催の企画は、市内および道内工芸家を主体としたテーマ設定を行い、工芸家の成果と陶芸を主体とした工芸文化の普及に努める。企画運営を従前のセンター主催事業のみから、市民開放の機会を増やす。それにより市民の文化活動支援となるとともに、企画経費の削減にもつながると思われる。